

今回は「Q 資料」について書きたいと思います。しかしこの言葉を聞いたことがない方も多いと思います。実は Q 資料はマタイやルカなどの福音書のように、実際に写本などが発見されたものではありません。では Q 資料とは何なのでしょう。

聖書には四つの福音書が収められています。しかしそれぞれの福音書を読んでいると、同じような物語なのに微妙にニュアンスが違う箇所が多く見られます。

例えば荒れ野の誘惑の場面を見てみると、マルコ福音書では 1 章 12～13 節にとっても簡潔に書いてあるだけです。しかしマタイ 4 章 1～11 節および、ルカ 4 章 1～13 節では、悪魔とイエス様の三度のやり取りが書かれています。

もともとマタイ福音書とルカ福音書は、マルコ福音書を下敷きにして書かれたと考えられていました。しかし「荒れ野の誘惑」のように、マタイとルカの間で内容や語句の使い方が共通しているものの、マルコ福音書に見られない箇所が多くあることがわかってきました。

そこで多くの学者は、マタイとルカの著者が共通の資料を持っていて、それを元に福音書をまとめたのではないかと推定しました。その資料を Q 資料と呼ぶのです。

ただし、この資料は写本も含めて発見されておらず、あくまでも仮定のものであります。しかし現在では定説とされています。

福音書はさらに多くの資料も用いて編集されたと考えられています。イエス様とは一体何者であったかを、それぞれの福音書記者は正確に人々に伝えようとしてきました。そのおかげで、わたしたちにもイエス様を通して示された神さまの愛が伝わっているのです。

次回は「教会」です。楽しみに。



「盲人の寓話」

ピーテル・ブリューゲル

(1525 頃～1569 年)

イエスはまた、たとえを話された。
「盲人が盲人の道案内をすることができようか。二人とも穴に落ち込みはしないか。」

(ルカによる福音書 6 章 39 節)

